

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU NETWORK NASU CHARTERED 1995



2015~2016年度 No.197

6月 月報

那須クラブ会長 主題
拓こう 築こう ワイズの世界

強調月間： 評価

那須ワイズメンズク



5月(とちぎYMCA塩澤総主事を迎えて)例会 5月26

2015~2016年度 主題
 国際会長：(IP) Wichian Boonmapajorn (タイ)
 「信念のあるミッション」
 アジア地域会長：(AP) Edward K.W. Ong(シンガポール)
 「愛をもって奉仕をしよう」
 東日本区理事：(RD) 渡辺 隆 (甲府)
 「原点に立って、未来へステップ」
 北東部長：中川 典幸 (仙台)
 「今と原点を融合して未来へ」-楽しく改革・笑って行動-

クラブ役員 事務局
 会長：田村 修也
 副会長：村田 榮
 河野 順子
 書記：荒井 浩元
 会計：鈴木 保江
 担当主事：荒井 浩元
 ブリテン：田村・村田

5月例会データ(出席率：83.3%)
 在籍者 6名
 例会出席者 5名 メネット 3名
 ゲスト：1名

今月の聖句
 主は高い所に住まう者を引き下ろし、築き上げられた都を打ち倒し、地に打ち倒して、塵に付させる。貧しい者の足がそれを踏みにじり、弱いもの足が踏みつけていく。
 イザヤ26：5~6

東京目黒クラブ 那須クラブ
 なし 6月 Happy Birthday
 なし なし

巻 頭 言

荒井 浩元

【クリスチャン生活～証】

昨年4月のイースター礼拝で私は受洗をし、クリスチャン生活がスタートいたしました。今年の始め、西那須野教会の会報「からしだね」に証の記事が掲載されました。こちらの内容を一部抜粋ではありますが、ご覧頂けましたら幸いです。

私がキリスト教との出会いには、とても興味深く、言わば神様のご計画にあるのではないかと思います。ご縁があるのではないかと感じます。私の父は日本人、母は台湾人であり、私は宇都宮で生まれた日本と台湾のハーフ(日本人)であります。小さい頃から家庭の中では日本語と中国語(北京語)、時には、台湾語が飛び交っています。父方は仏教の「曹洞宗」、母方は風水などで有名な「道教」という二つの宗教が家庭で混ざり合っていました。お盆になるとお寺での法要があったり、母方の親戚へ会いに台湾に行くと、道士である祖父からお守りの御札を頂いたりしていました。

私がキリスト教と初めて出会ったのは、中学の頃でした。私は作新学院中等部に入学し、給食を頂く前にはお祈りをしたり、週1回、モーニングディポジションという授業で、牧師先生から説教を頂く時間があったり、クリスマスの時期にはクリスマス礼拝があったり、中学校生活のなかで、キリスト教の習慣や倫理を身近に感じながら過ごしていました。

高校二年生の夏、私は中国の南京市にある高校に1年間留学をいたしました。留学中には沢山の留学生仲間がおり、中にはクリスチャンの留学生もいました。クリスチャンの留学生と一緒に過ごしている中で、一緒に中国の教会に行ったり、イタリア語の聖書を見せてもらったり、クリスチャンとしての生活を見たり感じたりしていました。

大学生になると、私が今働いております YMCA にボランティアとして参加するようになりました。そこでは、キャンプや日帰りプログラムなどの子どもたちと過ごす時間において、担当スタッフが聖書にまつわる話をしていたり、教会でボランティアのミーティングを行ったり、行事で礼拝に出席したり、ボランティア活動をしている中でキリスト教ととても密接に関わっており、「愛」という考えや「聖書」に書かれてある教えはとても素晴らしく、私も大切にしていきたいなと思うようになり、時には子どもたちにも話をしたこともありました。

そして、2013年4月、私はとちぎYMCAに就職し、私が配属している那須YMCAと縁のある教会「西那須野教会」と出会うことができました。礼拝に出席した際、心地良い壮大な音を奏でるオルガンの奏楽を聞くととても心が安らぎ、また「ようこそ」と暖かく迎えてくださる教会の皆様、そして私に新たな気づきを与えてくださる牧師先生の説教、私の中では全てがとても新鮮で、とても実りのある時間を過ごすことができました。私は更に聖書について知りたい、もっともっと神様について知りたい、という気持ちが増え、「受洗」という道へと進んでいきました。私はこのクリスチャンへの道を導いてくださった神様をはじめ、西那須野教会の皆様、今まで私と出会った皆様にとっても感謝しており、私が生きている使命と感じている「青少年の育成」を更に気を引き締めて全うしていきたいと思えます。これからもどうぞよろしく願いいたします。

5月例会報告

日 時：5月26日(木) 16時～

場 所：西那須野教会 1階ホール

参加者：メン：田村会長、河野副会長、村田副会長、原田、荒井。メネット：原田、村田、田村。
ゲスト：塩澤とちぎY総主事 合計：9名。

5月例会は、「とちぎY塩澤総主事をゲストにお招きして」という特別な例会を計画した。そのため、超多忙な新任の塩澤総主事の日程調整をお願いして、通常の定例会の日程をそれに合わせることにしたので、木曜日、午後4時からとなった。事前に日程調整がついていたので会員も諸事情を調整して、出席することが出来た。那須ワイズと那須Yとは中心的な会員が重複しているので、ワイズの活動が即那須Yの活動という状況で21年間活動を共にしてきた。そのような事情の中で、以前にも何度もYの総主事を迎えて懇談をする機会を作ろうとしたが、とちぎYの総主事は超多忙のため実現しないまま、今日に至っていた。私の今記憶しているだけでも、とちぎ県内には、宇都宮、宇都宮東、足利、那須と4ブランチがあり、その他、塩谷キャンプ場、指定管理として宇都宮市青少年活動センター・トライ東、委託事業として学童保育の足利市のひがしやまアトムクラブ、学校法人さくらんぼ幼稚園、陽東保育園、社会福祉法人マイホームきよはら等々、その他職務上付いてくる行政関係や諸団体での役職等を考えただけでも超人的なパワーが要求されることは自明で

ある。当日も遅れるとの連絡が入り、例会進めながら待つことにした。約30分ほどで到着した総主事から、早速とちぎY全体の状況、総主事就任に当たっての抱負、各ランチへの期待等々を伺い、事情で6時には閉会させたいので、早速各人から質問・意見等がなされ、活発な意見交換がなされた。那須ワイズの会員はそれぞれ、長年にわたってとちぎYの役員を務めているが、Yの役員会ではなかなか意見交換の時間も取れないが現状。この度は限られた時間ではあったが、実質的な話し合いができた。まだまだ続く話し合いは次の機会にということで、時間をオーバーして閉会となった。尚、総主事にシイタケ昆布1個を販路獲得の為に贈呈した。又、熊本地震に対する支援金8,000円をとちぎYMCAに託した。(田村記)

5月役員会報告

日時：5月6日(金) 18:30~

場所：ココス西那須野乃木店

出席者：田村会長、河野副会長、村田副会長、田村メネット、河野コメット

協議事項

1. 5月例会の件

5月27日(金)午後6時~。場所：西那須野教会。内容：とちぎYMCA総主事を迎えて那須YMCAと那須ワイズの方向性について話し合う。リーダーや協力会員の参加を含めて開催する。食事はカレーとする。

2. 6月役員会について

鈴木会計の出席できる日程で調整を行う。調整は、荒井担当主事に一任。

協議内容は6月例会、7月例会、その他、ブリテンの原稿

3. 6月号ブリテンの内容について

西那須野幼稚園、学校法人アジア学院で掲載をする。巻頭言は、河野メン。「ユースリーダーのつぶやき」。

4. その他

・熊本地震の支援金、クラブとして10,000円をした。村田が立替。

・第19回東日本区大会、6月4日(土)~5日(日)長野市において開催。

村田メン・メネットが参加する。

・シイタケ昆布の購入は、250gで80個の仕入れる。

旧西那須野(那須西原)の緑と水(39回)

田村修也

それに引き続いて、黒磯南方において、原野128町歩を、中村元保の名義で拝借開墾を創め、明治25年佐野常民の経営となり、佐野開墾と呼ばれて現在に至っております。管理者は河野通敏というひとでした。佐野常民は、初代日本赤十字社の社長で、元佐賀藩士、尾形洪庵に洋学を学び、伊東洪庵には医学を学ぶなどした後、藩の鉄砲製造局の設置に次いで反射炉を築き、佐野はその主任となり、蒸気船、蒸気機関車の模型を完成。その後、長崎海軍伝習所に47名を率いて参加。明治に入り海軍の創設に尽力。元老院議員、同議長、大蔵卿、枢密院顧問官、農商務大臣を歴任。西南戦争中に博愛社(後の日赤)を創設し社長となり、後に日本美術協会となる龍池会設立にも貢献しました伯爵です。もう何年前になるでしょうか。全共闘のグループが明治元君たちの一連の施設を襲撃して炎上させた事件がありました。その中に、三島通庸の別荘でボーイスカウトの那須野営場を移築した西那須野郷土資料館と乃木希典将軍の那須農場事務所兼住宅も含まれていました。乃木農場は再建されましたが、三島通庸の別荘であった郷土資料館は全く新しい那須野が原ミュージアムとして新設となりました。宇大の学Y時代には、夏季学校をこの9haの広大な庭園と木造2階建ての別荘で何回か開きました。2階階段の登り口には三島通庸の大礼服姿の大きな肖像画が掛けてあり、床の間には佐野常民のボーイスカウト制服姿の肖像画が掛けてありました。今では記憶にしか残っておりません。誠に残念なことをしてくれたものだと悔やまれてなりません。野営場長の古田デンジーの独特な話し方も懐かしい限りです。

これに引き続いて、那須疏水の灌漑区域から外れますが、青木農場に隣接して山麓側には、戸田氏共経営の戸田開墾884町歩があり、主として山林を経営し、また、大田原地区の渡辺國武子爵の実兄の渡辺千秋伯爵の経営する渡辺開墾137町歩がありと、那須西原ばかりでなく、那須東原も1万町歩が余す所がなくなっていました。

さて、那須開墾社や三島農場である肇耕社は、水に不自由することは覚悟の上で、開拓に着手したのですが、いざ始めてみると、水のないということが、人間生活上如何に苦しいことであるかを痛切に思い知らされました。最初の入植者たちは2kmから4kmも離れた水場である箒川まで天秤で

水を汲みに行かなければなりませんでした。それ
もご婦人方の仕事でした。前にも記載してあつと
思いますが、記録の中には、ある婦人がやっとの
思いで遠路苦勞して運んできた水を、自宅の目の
前まで来て、躓いて全部流してしまい、もうこん
な生活は耐えられないと、地面を叩いて泣いたと
記されています。この苦勞を耐えさせたのは、必
ず疏水が出来て水を得ることが出来る。そうすれ
ば、米を作ることが出来るという希望でした。竹
筒に入れて大切に持参してきた種籾の音を聞きな
がら堪え続け待ち続けたのでした。 アジア学院
の学生に、那須野ヶ原の開拓と那須疏水の歴史を
巡礼しながら話をして、このくだりに来ると、女
性の学生の皆さんは涙ぐむことがあります。今で
も水を得るための苦勞は続いており、その重荷は
主としてご婦人方が担っているからです。 印南、
矢板さんはじめ関係者は、移住人を入植させよう
としても、水のないところには定住させることは
できない。牧畜を始めても、牛馬に水飼うべき水
もない。それでは開墾事業の成功も甚だ覚束ない
ことになる。ここにおいて、窮余の一策、初めに
計画した舟運の便を開くような、大規模なものは
到底望めないが、せめて、飲料水を得るだけの、
小規模の水路を開削したい。調査してみると、工
費2万2千余円で成功し得る見込みがたちました。
これに基づいて、那須開墾社と肇耕社は提携して
請願書を県に提出することにいたしました。時に、
明治13年9月のことでした。(以下次号へ)

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園
園長 福本光夫

熊本地震に対する義援金のご協力を頂き感謝申
上げます。全日本私立幼稚園連合会、日本キリ
スト教団全国教会幼稚園、全国認定こども園協会、
那須YMCAを通して捧げたいと思います。

さて、保護者の皆様は5月の連休をお子様と日
頃出来ない経験を共有されたことと思います。私
は連休中、小山教会50周年記念式典に出かけた
以外は家で過ごしました。毎日、近所のスーパか
らキャベツの外葉をいただき、1日2回、羊とう
さぎにあげました。ナスハウスさんから頂いた人
参やその葉、タケノコ、保護者であるハーレー牧
場さんからの干し草でなんとか、餌不足は免れま
した。 さて、餌をあげるなかで、やぎの「チャ
ッピー」を思い出しました。約9年前の今頃、園

で飼育していた「チャッピー」が天に召されまし
た。その年の1月末から高齢のために寝たきりにな
り、3ヶ月半余り、子どもがエサをあげたり、
声をかけたり、当時担当したNさんが褥瘡が出来
ないように介護しました。冬の時期だったので、
保護者の皆様からいただいた布団や毛布で、寒さ
を乗り越えられて元気になっていただけに、突然の
死は私にもとてもショックでした。子どもたちや
保護者の皆様に大変可愛がっていただき、寝たき
りになってからもお見舞いや布団等の差入等、死後
は献花等、みんなにとっても愛されていました。

チャッピーは、もう成人になった卒園生の相お
じいちゃんからいただいた母ヤギの子として幼稚
園で生まれました。子どもたちは「チャッピー」
の誕生をとっても喜び、子ヤギのぴよんぴよん跳ね
る様に驚きの目で見ていたことを思い出します。
また、「チャッピー」の母親のお乳を絞り、沸騰
させ、みんなで飲んだりもしました。その後、「チ
ャッピー」はお腹に子どもがいるのですかと聞か
れるほどの肥満ヤギへと成長しました。「チャッ
ッピー」の食欲は人一倍旺盛で、寝たきりになっ
てから亡くなる前日までも余り衰えませんでした。
今、「チャッピー」の生涯を改めて振り返ってみ
ると、食欲の固まりのヤギの「チャッピー」では
なく、子どもたちの愛の行動としてのエサをあげ
を、寝たきりになっても拒まずに受け入れ続け
てくれた愛のヤギ「チャッピー」と考えることが
出来ます。言い換えると、子どもの愛の行動を可
能な限り受容し、食べるということで、子どもの
愛の行為に死ぬ前の日まで、応えて続けてくれた
素晴らしい教師「チャッピー」であったのです。
歩けなくなってからも、そして死をも、いろんな
意味で素晴らしい教育を私たちにしてくれました。
翌週の火曜日の朝、チャッピーの死を知った小学
3年の卒園生が、チャッピーのお墓にと花を届け
に来てくれました。私は、園ではなく野外活動セ
ンターに埋葬したことを伝えると、本人は、行っ
てお花を捧げたいと言うことでした。本人の強い
意志にお母さんも、一時間目の遅刻を了解せざる
を得なく、Nさんに野外活動センターの埋葬地に
案内してもらいました。卒園して2年1ヶ月も経
っているもかかわらず、チャッピーの死を心から
悲しんでくれる卒園生を誇りに思うと同時にチャ
ッピーは幸せだと感じました。

子どもと動物は、IとIt(They)というような人
と物の関係ではなく、マルチン・ブーバーのいう
IとYOUという人格関係です。今はアレルギーの

事もあります。幼児期に動物と出会う事、動物との関係が日常生活にあることはとても大切なことです。(しらゆり 2016/5/13 加筆修正)

学校法人 アジア学院だより

校長 荒川 朋子

ホームステイプログラム

今年も毎年恒例の首都圏でのホームステイプログラムの季節がやって来ました！ このプログラムはアジア学院創設当初から続く長寿プログラムで、日本基督教団全国婦人会連合世界宣教部のご婦人方のご協力を得て毎年行われます。アジア学院の学生たちが首都圏のご家庭に2泊3日のホームステイをさせていただき、2日目の日曜日はそのご家庭の皆さんの通う教会の礼拝に出席し、その後は首都圏の様々なところを案内させていただきます。この機会にほとんどのアジア学院の学生にとって、生まれて初めて日本人のご家庭に泊めさせていただくこととなります。ですので、それに先立ってアジア学院では「日本人のご家庭に泊まる時の注意点」についてのオリエンテーションを行います。お風呂の入り方、トイレの使い方（特にウォシュレット！）、夕食でお酒を進められたらどうするか、夕食後の片付けは進んですべきか、ペットとの付き合い方、聞いてはいけない質問等々、注意事項は多岐に亘ります。学生たちはアジア学院の大事な支援者に粗相があったらいけないと、真剣な面持ちで注意事項を聞き、緊張してその日を迎えます。土曜日からは始まるプログラムは、企画委員の皆さんと、一部のホストファミリーの皆さんとの意見交換会から始まり、それが終わるとホストファミリーの皆さんが学生たちを引き取りに会場に集まってきます。学生たちは緊張していつもの仲間と別れ、それぞれの2日間を過ごすこととなります。2日間のホームステイを終えて、3日目の月曜日の朝に集合場所で再び再会する時は、無事にホームステイを終えて、顔なじみのアジア学院の仲間と再会できた安ど感、本当の両親のようにかわいがってくださったホストのご家族の皆さんとの別れの寂しさで、涙、涙の時間が流れます。アジア学院のバスに乗り込み、栃木を目指す頃には、やや落ち着くものの、バスの中ではすぐにそれぞれの体験が興奮気味に話され、それはそれは嬉しそうな顔がバスの中にいっぱいになります。

外国人観光客が急増する中、日本社会には多く

の課題が残っていると思います。たった30人を2泊3日ホームステイさせていただきだけでも、主催者側、ホストファミリー、学生を送り出す学院側のそれぞれで相当の準備が必要です。民泊もどんどんと広がる中、この未熟な準備態勢のままでもいいのかと思ってしまいますが、問題を経験して互いに学んでいくということもあるのかとも考えます。最も大切なことは、互いの文化に敬意を払い、自分の領域に暖かく受け入れる気持ちがあるかないかだと思います。看板やパンフレットが2カ国語、3カ国語になるなど、恰好だけの準備が整っているように見えても、異質なものを受け入れる心の準備と余裕がなければ何にもなりません。経済の停滞、人口減少と現在の日本の最重要課題に対して、外国人の受け入れというのは好き嫌いを言われていられる次元の問題ではなくなっているようにも思います。欧米の移民を受け入れる歴史の長い国々が、こぞって移民に対して閉鎖的な態度を取り始めた昨今、日本は日本で、何か新しい、且つ日本らしい形で外国人の受け入れ、付き合い方を生み出せないものかと考えています。

今後の予定

・第19回東日本区大会

日時：6月4日（土）～5日（日）
場所：長野市

・6月役員会

日時：6月11日（金）午後12時30分～
場所：ひかりのカフェ（旧蜂巢小学校）
内容：6月例会、7月予定の確認、7月号ブリテンの発行等。

・6月例会（とちぎYMCA報告会）

日時：6月24日（金）午後6時～
場所：西那須野教会

・7月役員会（予定）

日時：7月7日（木）午後6時30分～
場所：ココス西那須野乃木店
内容：7月例会、新年度計画、8月予定の確認、ブリテンの発行等。

・東京目黒クラブの予定

6月例会：6月8日（水）午後1時30分～
7月例会：7月13日（水）午後1時30分～

YMCA 報告

【フィリピン ナボタス・タラ村 交流キャンプ 参加者募集！】

ナボタスはマニラ郊外にある漁港です。近年は地方からマニラに仕事を求めて移住してきた人たちが多く住み、住居が密集した貧困地域です。このナボタスの教会を中心とした地域で、現地の青年たちのグループと一緒に交流キャンプを行います。フィリピンの都市と農村、開発と貧困、環境問題など様々な社会問題を一緒に体験したり、異文化理解、ホームステイもしながら、知り、考え、行動するグローバルなキャンプです。

日程：8月15日（月）

～8月22日（月）

費用：12.5万円（高校生・大学生には4万円の補助あり）

応募締切：6月中旬

お問い合わせは：国際担当 小野寺 温代 まで

【第11回とちぎYMCAインターナショナル・チャリティーラン2016】

また今年もチャリティーランが開催されます！今年6月26日（日）に、第11回とちぎYMCAインターナショナル・チャリティーラン2016を開催いたします。当日のランナー、物品寄付、運営ボランティア等を募集しております！是非皆様のご参加をお待ちしております。また、那須ワイズメンズクラブより寄付金を頂いており、毎年のご協力・ご支援どうもありがとうございます。

日時：2016年6月26日（日）

9：00～14：00

場所：栃木県総合運動公園 陸上競技場

主催：公益財団法人とちぎYMCA

ワイズメンズクラブ（宇都宮・宇都宮東・足利・那須）

【とちぎYMCAサマープログラム始まります！】

5月30日（月）より、サマープログラムの募集受付が始まります。宿泊キャンプやデイキャンプなど楽しい企画が盛りだくさんです。是非、沢山の方にお誘い頂きご参加をお待ちしております！

WEB先行受付：5/30（月）10：00～6/13（月）17：00

会員電話受付：6/14（火）13：00～

一般電話受付：6/16（木）13：00～



【とちぎYMCA・那須YMCAの6月の予定】

- ・6/4（土） サタデークラブ@八幡山公園
- ・6/5（日） サマープログラムキックオフリーダートレーニング@宇都宮YMCA
- ・6/11（土） サタデークラブ@なかがわ水遊園
- ・6/12（日） Yキッズ@宇都宮市冒険活動センター（お菓子作り体験）
- ・6/18（土）～19（日） 日本YMCA同盟 同盟協議会@東山荘
- ・6/19（日） マイホームきよはら ふれあい祭り@マイホームきよはら
- ・6/24（金） 那須YMCA会員の集い@西那須野教会
- ・6/25（土） サタデークラブ@なかがわ水遊園
- ・6/26（日） 第11回チャリティーラン@栃木県立総合運動公園

東京目黒クラブ5月例会訪問報告

副会長 村田 榮

5月11日（水）午後1時30分からの東京目黒クラブの5月例会にメネット共に参加してきました。今月は、東京サンライズクラブの小山久恵メンのお話を聞きました。昨年10月にBF代表（フルブライト）として、南オーストラリアを1ヶ月かけて訪問された時の記録をパワーポイントを使って報告された。さすがに在京内のワイズをゲストスピーカーとして訪問されただけあり、よくまとめられた内容の報告でした。クラブ間の移動等は、数百キロにわたる昼夜かけての車での移動がほとんどで、その間メンバーのお宅でのホームステイであったとのこと。デンマークIYCで村野宅にホームステイをしているオマイマさんのご紹介もあった。今月もシイタケ昆布の販売に協力をしていただいた。

ユースリーダーのつづやきコーナー

【すっちーリーダー 須江卓矢 国際医療福祉大学薬学部3年生】

昨年の夏、赤城わんぱくキャンプにプログラムリーダー（全体進行などを行う役割）として参加しました。YMCAのボランティアに参加して一年半が経ち、様々な活動に参加してきましたが、今回初めてキャンプでのプログラムリーダーを担当しました。最初はもちろん不安もあったし、プログラム中に「もっとこうすればもっとよくなったのに」という反省もありました。子どもたちがキャンプを通して様々な成長をしていけばいいなと願い、準備を進めていきました。キャンプ中、子どもたちは私たちリーダーの願いの通りにたくましく成長していく姿を見てとても嬉しく感じました。また、特に印象に残っていることは、キャンプ中に練習していたキャンプソングを最終日には皆がとても元気に歌っていて、そこでキャンプが一体になっていると感じ、とても感動しました。子どもたちもキャンプを楽しんでいたし、私たちリーダーとしても思い出に残る充実したキャンプになりました。



石巻広域クラブチャーターナイト

副会長 村田 榮

5月28日（土）午後2時から石巻グランドホテルで開催されたチャーターナイトに那須クラブを代表してメネットとともに参加してきました。新メンバー21名でスタート。メンバーの殆どの方が東日本大震災の被災者。ある方は、ワイズの歌声広場での出会いから今回のワイズの活動に参加されていた。復興住宅での生活のお話も聞くことが出来ました。東日本区渡辺理事をはじめ東西ワ

イズの100名を超えるメンバーが集まり、チャーターナイトが開催された。仙台青葉城クラブよりの移籍された清水弘一ワイズのお働きが大きな力となっていることを実感しました。石巻地域での今後の働きを期待するものです。翌日は、被災地を訪問しました。5年たっても復興道半ば、10m以上の土地をかさ上げする状況も見せていただきました。これからどのように変わっていくのかを見守っていきたいと思いました。昨年本を寄贈した上三川プロジェクト「百俵館」のお働きの様子も見る事ができ感謝でした。



（写真は、東日本区ホームページより）